

うきは市議会議長 江藤 芳光 様

令和5年9月1日

厚生文教常任委員会

委員長 佐藤 裕宣

委員会調査報告書

令和5年うきは市議会6月定例会において、閉会中の調査申し出の所管事務調査を行ったので、うきは市議会委員会条例第36条の規定により、下記の通り報告する。

記

子ども子育てに関する政策提案の内容について

1. 調査期日 令和5年7月20日（木）
2. 調査場所 市役所第2委員会室
3. 出席者 厚生文教常任委員7名 議会事務局2名
4. 調査目的

本定例会において、子ども子育てに関する政策提案を行う事を目的とし、当委員会では昨年6月から行政視察等の委員会調査を行ってきた。そのまとめとして、これまでの調査で得た知見・資料を元に、再度の調査と議論を行った。

5. 調査要旨

まず、これまで調査した内容について資料を元に費用対効果等を再度点検し、どういった施策が最も必要であり、子育て世帯のニーズに応えられるか、また財政的に実現可能であるか等、について議論を行った。委員からは

- ・今回の提言は医療費か給食費の無償化とすべきではないか、保育料の無償化は保育士不足ということもあり待機児童が増加する恐れがある。
- ・高校生までの医療費無償化はもはや全国的な流れであり、県内でも実施に向かっている市町村が増えている。実施していないうきは市は取り残されかけてるとも言え、この状況と実現可能性を考えれば、医療費無償化が妥当である。
- ・給食費は毎月かかるため支払うことが前々から分かっていることだが、医療費は不慮の事故等がある。不測の事態に無料で医療が受けられるのは安心感につながる効果がある。
- ・給食費の無償化がインパクトは1番強いと思うが、財源を示さなければならない。

などの意見があり、議論の末全会一致で

「令和6年度からの高校生世代までの子ども医療費完全無償化実施」を委員会として9月定

例会において政策提案することとした。

6. 所見

古賀市では子ども医療費を18歳まで無償化する条例改正案を9月定例会に提案する、と去る8月25日に記者会見で公表した。

委員からの意見にもあったように、「高校生までの医療費無償化はもはや全国的な流れであり、実施していないうきは市は取り残されかけている。」それが現実のものとなっている。

うきは市では、議員が一般質問等でこういった提案をすると「自治体間の競争をあおることになる。国の動向を注視する」との市長答弁が返ってくる。それもひとつの考え方であるが、一方「本来、国家として全国一律に18歳子ども医療費の無償化を実施すべきだ。これまで何度も言ってきたが、国がやらないから自治体としてやる。」というのが古賀市田辺市長の言葉である。

同じ県内の自治体の長としてどちらが、より市民に寄り添っていると言えるだろうか。

中学校現地調査及び部活動地域移行についての調査

1. 調査期日 令和5年8月3日（木）
2. 調査場所 吉井中学校・浮羽中学校
3. 出席者 厚生文教常任委員7名 学校教育課長・係長2名 事務局2名
4. 調査目的

建設後約50年が経過し老朽化が著しい浮羽中学校に伺い、生徒の安全・安心な学びの場の確保という観点から、学習環境の調査を行い、同時に比較対象として比較的築年数の浅い吉井中学校の環境調査も行った。また、2023年度から公立中学校での休日の部活動地域移行が全国的にスタートすることになるが、その課題等を把握するための調査を行った。

5. 調査結果

添付写真を見ても分かるように、浮羽中学校は天井・床・壁などの経年劣化により構造体としての強度の低下など安全性に問題があるところまできているのではないかと。また、雨季は必ず雨漏りが発生し、その都度修理を行っている状況であった。さらに両中学校とも、こうもりが繁殖し、糞（ふん）の処理も大変だとのことであった。

部活動地域移行については、部活動地域移行コーディネーターにお話を伺った。外部指導員の不足など課題はあるが一つ一つ解消しながら、まずはルール作りから始めていきたいとのことであった。

質疑応答については添付しているのでお目通しをお願いしたい。

6. 所見

生徒が安全に安心してなおかつ、快適に学習できる環境を整えるのは行政としての責務で

ある。吉井中学校はともかく、浮羽中学校においては、雨漏りなど傷んだ部分、あるいは学校から要望があった部分だけをその都度応急的に修理するだけの現状では、その環境が整っているとはとても言い難いというのが現地調査を行っての率直な感想である。

「老朽化」という課題を放置したままで「もうどうしようもない」というような状態を迎えることは、本来あってはならない。また「老朽施設の将来へのつけ回し」は許されるべきではない。

総合管理計画の中には「学校施設整備計画に基づき建替え等をも含めた適切な管理を行い、生徒の安全・安心を確保します。」とある。

財政的に全面的な建て替えは困難だとしても、老朽化が著しい部分については年次計画を立て、部分建て替えを含めた大規模改修を進めるべきではないだろうか。



部活動地域移行・外部指導員についての調査

(主な質疑及び意見の内容)

- ・ 令和7年度までにひとまず休日の地域移行を目指していくところとのことだが、当市での現在顧問に入っている教諭は文科省の出している兼業制度に乗せていくこととなるのか。
- 本人の希望や国の基準として部活動を含めてその教諭の月の超勤が80時間を超えると不可能と判断するなど兼業兼職には縛りが結構ある。時間外手当の予算も必要。今のところその辺の整理がついていない。合同部活動での形態は今のまましていく予定。
- ・ 担当する部活動種目が未経験の方が顧問に入ってもらえる状況を整えることは正直難しいと思うが。
- まだ見通しは未定。当該部活の種目未経験でも全国大会へ導くような良い指導者となることもあるため、一概にいけない。学校で育てていく部分があると思う。部活人事は中学にはないので、無理やりさせることはないが現状無理をお願いしているところは確かにある。
複数顧問制が実現できるように状況が整えばまた変わると思う。部活動の数の見直しに取り組んでいたところであったが、地域移行の話が出てきてその動きをストップさせている状態。
- ・ 合同部活動になったらどちらかの中学での実施となると思われるが、練習場所の中学まで生徒は原則自力で行かなければならないのか。
- スクールバスは土日は活動していないので、活用し吉井中 - 浮羽中間で動かす予算を作ったが、あくまで練習の際のみ。練習試合は別であり、かつては教師が乗せて行っていたが、それはできなくなっている。自治体で違いもあり、例えば当市では中体連の大会では貸切バスを利用しているが、練習試合では保護者の送迎であったりする。
- ・ 中学校毎の外部指導員の配置は、物価高騰による道具類への補助はあるか、超勤問題の解決への取り組みがあれば教えてほしい。
- 外部指導員について、吉井中は吹奏楽、バレー、水泳、バスケ男女、ソフトテニス女子、柔道、剣道に配置、浮羽中は柔道、サッカー、陸上、バスケ、ソフトテニス、吹奏楽、水泳に配置している。
道具や用品類への援助はない。部活の種類によって必要な費用に差があるため、その対応をどうするかという課題もある。
部活の実施時間や日数は決まっており、学校として守り超勤を削減に取り組まれているはず。
- ・ 外部指導員は試合の送迎は可能か。
- 外部指導員は引率ができない。ベンチ入りは中体連への登録があればできる。ただ、来る頻度もばらつきがあり、顧問の先生が中心になって指導しているのが現状である。
- ・ 浮羽中野球部の指導者は現在野球経験者の方であるか。
- 経験者の方であり、今年度はさらに経験者の方が加わり指導体制が充実した。